2021.5.28「市原ぞうの国」における 2 頭死亡 4 頭重症化について
千葉県庁への要請アクション

◆ 2021 年 5 月 28 日 1.5 時間

動物解放団体リブから 理事1名、監事1名、 任意の会から1名

任意の会による要請アクションについて要約

※以下の内容について無断で 〝転用・転載する事を禁じます。活動組織を変更して利用する事も禁じます。

※千葉県千葉県保険衛生指導課職員3名からの聴き取り、意見交換と交渉内容を抜粋、今後の交渉のため公表 できない内容もあります。

以下、会話の要旨として、職員の説明、反論、意見を「千葉県から」とし、私たちの主張、 質問、要請を「当方から」とさせて頂きます。

千葉県から　5月17日2名の獣医師が1時間 立入り調査をした。

4頭は起立しており、1頭は起立して補液していて何も問題なかった。

〈省略 〉

当方から　ゾウは野生で横になる事はほとんど無く、生理習性から起立は当たり前。横になると内蔵などを圧迫して非常に危険、生息地では骨折も吊って治療した例がある。(これには、担当職員もうなつづき合意し、反論なし。)

当方から　死亡した2頭、重症化4頭以外のゾウの健康状態を確認したのか、また何かの予兆 はあったのか、なかったのか。

千葉県から　重症化した4頭以外のゾウは見ていない。

当方から　何しに行ったのか。6頭もの大型動物を一気に倒し3トン近くのゾウ2 頭を 死に至らしめた現場に行って、生存していると思われる(主張している)残りの 6 頭を 見ないとは職務怠慢ではないか。

千葉県から　必要ないと思った。

当方から　4頭の現場は隔離されていたのか。動線は確保されていたのか。

千葉県から　隔離はされていなかった。

当方から　原因も未だに判明していない。立入りしたのは死亡した翌日なのに隔離しておらず、またそれを保健所の獣医師が見ても隔離の指導せずに帰ってしまうとは。

何か指導できない訳でもあるのか。何しに行ったのか。今更隔離しても、全く意味なし。そしてあの施設でゾウと人の動線が確保できない構造だから無理。(これには千葉県側も同意。)

健康に問題ないゾウの安全を確保するため、市原ぞうの国が健康に問題なしとする 6 頭をゾウを飼育できる別の施設へ移動させるよう、千葉県知事から要請すべきだ。

立入りしたのに、起立して補液していた。それしか情報得て来なかった。これは行政の仕事 として大問題だ。上場企業、普通の企業ならこのような仕事ぶりでは左遷かクビではないか。公務員は 税金だから関係ないだろうと思いますが。

市原ぞうの国へ、勧告をして下さい。

千葉県から　今はそれはできない。立入りが甘かったのは認める。

当方から　それでは今後も続けて勧告を目指して下さい。

リブ　Animal Liberator

千葉県から　立入調査は続けると約束する。(当初、千葉県は何も問題ないからこれ以上

立ち入りしないと強く主張していた。)いつ行くとは言えない。

当方から　今後も立入りをするなら何が原因か、死亡重症化の原因究明をして下さい。何より死亡重症化の物的な根拠を上げる必要がある。初期の体調不良に気付き、検査治療を早い段階でしていたのなら防げたはずだ。

6 頭も一気に倒すほどの根拠が食中毒なら、餌の仕入れ業者に対し市原ぞうの国は黙っていないはずだ。草食動物の餌による死亡事故は何一つネット上でも発生していない。干し草、ペレット、芋、果物、どれを取っても重大な食中毒など発生するとは考えられない。なぜ〝、残りの 6 頭は健康を害していないのか。

千葉県警へ県知事から、事件の物的根拠を明らかにするため、捜査要請をするべきだ。一気に 6 頭(約 3 トン×6=18 トン、人間なら 60kg×300 人)も倒した脅威は解明されておらず、従業員、観光客、近隣住民を危険にさらしている。自宅に危険な薬物を所持し逮捕されるケースがある。次は人間が被害に遭わないよう、十分に捜査すべきだ。

アジアゾウは国際条約で守られている希少動物であり、世界的に保護されその為に尽力している人や団体が沢山いる。これは市原市や千葉県の狭い範囲の問題ではない。

守るべきは象であり施設の利益ではないし、千葉県は施設に加担していると感じられる行動や言動をすべきではない。

一頭は解剖もずに埋めている、もう一頭は解剖したが、解剖所見や、すでに結果が出ていると考えられる血液検査の結果すら公表していない。

これだけ世間をがせていることから、解剖所見、血液検査などの結果を公表するように指導して頂きたい。

リブ　Animal Liberator

千葉県は獣医師職員が立入りしても、生き残りの安否確認すらしていなかった。これは公表 させてもらう。

市原ぞうの国が ぞうの体調の異変に気付いたのは 14 日であり、この段階で隔離もせずに、6 頭の安全を確保しなかった。市原ぞうの国が原因を知っている可能性は否定できない。

5 月 11 日に協力者が撮影した「市原ぞうの国」の写真と動画がある。この写真では、ミニスターの手前にいるゾウが完全に横になって寝ている。野生ではほとんど横になって睡眠することはない。ちなみに、他の複数の動物園へ問い合わせたが、やはり通常横になって昼間に睡眠する習性 は無いことを確認とれた。

今日、この意見交換の中で、立入り調査した千葉県が「ゾウは起立して補液していたから大丈夫」と主張した。

このゾウの起立を根拠に問題なしとしていた訳だが、2 頭が死亡する 5 日前、写真のゾウは横になり、水下痢のようなものを垂れ流しており(腸管からの出血があったと報道あり)　動こうとしていない。(写真を職員へ提示) この直後にこのゾウはタイ人に起こされて、何とショーをされられた目撃事実があり、大きな 問題だ。この施設がいかに金儲け主義で、ゾウ を不適正飼育し必要な治療をせずに過酷労働を させているのは看過できない。

この写真から、死亡の 5 日前の 5 月 11 日に明確な横になり垂れ流しの症状はあったにもか かわらずショーで労働させ、獣医師を呼んだのは報道によると 5 月 14 日、これは明らかに ネグレクトで虐待だ。

この写真を撮影した人物はまったくの素人であるが、横になったゾウが具合悪そうだと感じたから撮影した。日常的にゾウに接している従業員が気付かったでは済まされない。

不適正飼育施設と言える「市原ぞうの国」の閉園を要求する。

以上